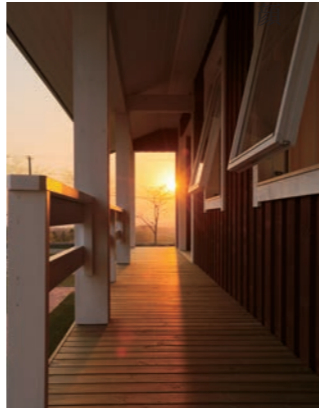




翌朝、日の出も見ようと早朝に目覚め、寝室のカーテンを開けると、

小鳥たちのさえずりに誘われて。

去に放ったもの。そんなことに思いを廻らせながら、シートでいつのまにか小一時間も過ごしていました。何もせずに、自然とひとつになる満ち足りた時間。ここではそんな非日常が日常なのです。ヴィラレクサンドは、3棟のコテージすべてが西側にリビングとテラスを持ち、大窓に向かってサンセットシートが2つセットされています。それは、まさに大自然のもてなしを愉しむためにあるのです。



顔を出したばかりの太陽が。あわてて外へ出ると初夏といえども早朝の北海道、Tシャツ姿では寒さがします。スウェーデンハウスが外気に影響されずに室内を快適に保つことをうっかり忘れていました。こだまなのか輪唱なのか、小鳥たちのさえずりがサラウンドで聴こえてきます。青々と広がる芝にハルニレの葉が心地よく風にそよいでいます。しばらく朝の散歩を楽しもうと決めました。

**物語に入ったような
幸せな風景。**

午後はスウェーデンヒルズの散策に。電線の地下埋設や建築ガイドラインなど、街づくりの具体的な施策はもちろん有効に機能しているでしょう。何をおいても、なだらかな起伏に富んだ芝にベニガラ色のスウェーデンハウスがゆったり並ぶこの街は、理屈抜きに

Villa Leksand

スウェーデンスタイルのサマーバケーションに。北欧の伝統とモダンが調和した心地よい空間が広がる、天然木のぬくもり溢れる個性豊かな3棟のコテージとカフェ棟からなるホテル「ヴィラレクサンド」。手稲連山のパノラマや石狩湾に沈む夕日をぜひサンセットシートでご堪能ください。43年の歴史あるスウェーデンヒルズゴルフ倶楽部も至近。プレー後の宿泊にも便利です。

詳細、ご予約は www.swedenhills-gc.com/stay/
または

どこから見ても絵のようで、歩いていっただけで幸せな気分になります。そこに突然ウサギやリスまで現れるのですから、まるで物語のなかに入ったよう。街で出会ったみなさんは、知らぬ私にも気持ちよい挨拶を交わしてくれました。そんな風景や人々の笑顔に、理想の街を創るという夢が着実に実っているように感じました。



札幌の中心部から車で約40分。石狩湾を一望できる丘陵地の変化に富んだ地形と豊かな自然を感じる森に包まれた街、スウェーデンヒルズ。スウェーデンハウスの創設メンバーが掲げた「人が人らしく自然と調和して豊かに暮らす」という理想の街づくりを実現するために、1984年に誕生したスウェーデンハウス発祥の地です。ここには多忙な日々を送る現代が忘れていた、大自然を背景に悠々と日常を楽しむ暮らしがあります。詳しくは www.swedenhills.jp または



**自然と
ひとつになる
豊かさ。**

東京在住 本誌コピーライターの
北海道「ヴィラレクサンド」
宿泊体験レポート。

そして夢は叶った
**SWEDEN
HILLS
Dream**



東京に長く住んでいると、日本に人と自然が調和した街があるといわれても、響きのよい夢物語のように聞こえます。だからこそ余計に、30年以上も前にその夢を実現したスウェーデンヒルズという街をこの目で確かめてみたいと思っていました。昨年夏、スウェーデンヒルズの一画にコテージ型ホテル「ヴィラレクサンド」がオープン。今回、この施設に宿泊する機会を得ましたので皆様に体験レポートをお届けします。

これまで
触れてきたのは
自然の一部だけだった。

スウェーデンヒルズに着いた時、初夏の風が運んできたのは、本当は今まで自然の一部しか感じていなかったのではありませんかという思いでした。石狩湾を一望する丘の頂に佇むヴィラレクサンドでチェックインを済ませ、荷ほどきをしていると、知らぬ間に室内のすべてが茜色のグラデーションに覆われます。窓の外には一際大きな太陽が色彩の重なりあう大空のキャンパスを従え、一日の有終を飾ろうとゆつくり海の深淵を目指していました。

**サンセットシートに
身も心も
まかせる時間。**

そんな太陽に促され、大きな窓の前のリクライニングシートに身をまかせました。遙か遠くの風景のはずなのに、まるで目前にさえ思える日の入りに見入っていると、今室内いっぱい注いでいる色彩は、太陽が過